

# 長崎の林業

小曾根星堂書



みずじんじゃ 水神社のイチヨウ（左）とわたら 渡良のアコウ（右）（壱岐市）

5

## 目次

●林政だより	令和3年度ながさき森林環境税事業の概要 ……………	2～3
●特集記事	兄弟で力を合わせ地元を盛り上げる新しいチャレンジを 西海市「有限会社西村木材産業」……………	4～5
●林業普及だより	県北での新たな森林管理システムの取組み……………	6
●地方だより・県央	「木の駅たかきプロジェクト」林地残材出荷量 1,000 t 達成！……………	7
●地方だより・壱岐	壱岐島の銘木・巨樹紹介……………	8
●林業団体情報	令和3年度長崎県民の森 年間イベントのお知らせ ……	9
●センターだより	抵抗性クロマツの抵抗性向上をめざして……………	10
●紹介コーナー	川添酢造有限公司……………	11
●長崎の山：岳 <small>たけ</small> の辻 <small>つじ</small> 212.5m（壱岐市）	……………	12

「長崎の林業」は、ながさき森林環境税により発行しています。



No.788

木づかい推進で地球温暖化を防止しよう！

ながさき森林環境税の取組についてはこちら→



森林ボランティアに興味のある方はこちら→



FREE

ご自由にお持ち下さい。

「長崎県庁」のホームページ「広報」→「県の発行物」からもご覧いただけます。

林政だより

## 令和3年度ながさき森林環境税事業の概要

緑豊かな森林は、きれいな水や空気を育み、災害から生命や財産を守るなど、県民生活に欠くことができない重要な存在です。

このかけがえのない森林を健全な姿で次世代に引き継いでいくために、事業に取り組んでいます。

令和3年度に実施される主なながさき森林環境税事業内容と予算（税負担分）は下記のとおりです。

### ①未整備森林緊急整備

未整備となっている森林を整備するための  
※きりすてかんぼつ伐捨間伐を支援する事業です。



整備された森林

令和3年度事業費 75,845千円

令和3年度計画面積 400ha

※伐捨間伐…間伐のうち伐採木が利用できず、林内に残す間伐のこと。

### ②環境保全林緊急整備

里山の再生を図るため、天然林の整備を実施しています。

地元自治会や市町が事業実施同意等の取りまとめを行い、県が発注する事業です。

また、荒廃した人工林の整備については、国の森林環境譲与税事業との調整により、令和元年度までに計画したものをもちて終了します。

なお、生活環境保全林整備事業等により整備された森林において、手すりや看板の新設など機能向上を図る事業も対象としています。

令和3年度事業費 102,426千円

令和3年度計画面積 100ha



整備された里山

### ③森林整備作業システム構築

間伐の作業効率を上げるために必要な路網整備と高性能林業機械のリース経費を支援する事業です。



森林作業道と林業機械の作業状況

令和3年度事業費 176,971千円(作業道開設)

令和3年度事業費 17,000千円(機械リース)

令和3年度計画延長 250km(開設延長)

### ④しまの間伐促進

島内需要に制限されることなく森林整備を進めるため、離島から島外に出荷される間伐材の海上輸送費を支援する事業です。

対馬については、国の事業を活用できるため、五島振興局管内のみで事業が行われています。

令和3年度事業費 7,250千円

令和3年度計画量 3,625 m<sup>3</sup>

5力年間の進捗率 58% (R2年度見込)



島外出荷状況

### ⑤ふるさとの森林づくり（市町提案型事業）

地域の森林づくりや県産木材の利用促進を目的に、市町や地域のボランティア団体などによる地域の独自性と創意工夫による取組を支援する事業です。



森林のつどいでの植樹活動

令和3年度事業費 41,000 千円  
令和3年度計画件数 21 件

### ⑥ながさ木・なごみの街づくり

県産木材の利用を促進するため、木質化及び木製品を県産木材で整備する取組を支援する事業です。「民間のPR効果の高いスペース」及び「民間の教育・保育スペース」を対象としています。



保育園の県産材利用テーブル

令和3年度事業費 10,000 千円  
令和3年度計画件数 10 件

### ⑦県民参加の森林づくり（制度型）

複数の市町をまたぎ県民協働で取り組む森林づくりなどを支援する事業です。



林業研究グループによる高校生の林業体験研修会

令和3年度事業費 3,000 千円  
令和3年度計画件数 2 件

ながさき森林環境税は、5年毎にその在り方を見直すこととなっています。平成29年度から開始した第3期事業は今年度で5年目となるため、社会情勢や事業効果等の分析や検証を行い、県民の皆様のご意見をいただきながら、その在り方の検討してまいります。

ながさき森林環境税  
のホームページ



（林政課 計画調整班）



有限会社西村木材産業取締役 兄の西村 弘毅さん（写真左）  
nishimokko（ニシモッコ）木作家 弟の西村 洋一さん（写真右）

## 若いご兄弟が守る昔ながらの材木店

西海市大瀬戸町は、角力灘に面した西彼杵半島の西側に位置する町で、かつては大村藩に属する港町として栄えていました。リアス式海岸特有の美しい景観を持ち、夕陽スポットが点在するのも魅力の一つで、ここ最近では瀬戸港から船で10分程の松島にある「日本一小さな公園」や福山雅治さんの「桜坂」のモデルとなったともいわれている桜並木などが人気です。この潮風漂う大瀬戸町の中心部に昭和38年から続く「西村木材産業」、通称「NISHIMOKUSAN（ニシモクサン）」があります。目の前に海が広がる最高のロケーションに建つこの材木店は3代目である西村弘毅さんが切り盛りしています。その西村さんを支えているのが弟の西村洋一さんです。今回はお二人に話を伺いました。

## 異業種からの転職

兄の西村弘毅さんは、元々福岡で趣味が高じてスケートボードやスノーボードの販売業に就いていました。しかし、材木店を営む父が体調を崩したことを機に退職し、地元大瀬戸町に戻り、材木店を手伝うことを決意します。父の仕事を支え、これまでとは全く違う仕事に四苦八苦しながらも10年程前には独

学で建築士の免許を取得。木材をより深く知るために、知り合いの林業関係者に付いて、現地のモニタリングにも足を運びました。2年前に父が他界してからは、祖父の代から受け継ぎ、築き上げてきたつながりを大切に、その全てを一人で引き継ぐことにしました。



（左）明るい光が差し込む材木店兼工房  
（右）市内で唯一の製材機 丸太の製材も行う

## 兄弟だからこそ出来る共同作業

そんな努力家の兄を支えているのが、弟の洋一さんです。小さい頃から材木店を経営する父の影響を受け、木工に興味があったと話す洋一さん。迷うことなく美術科のある高校へ進学し、大学では彫刻を学びました。卒業後は福岡で家具や店舗の内装、木工インテリアを製作する会社に就職。そこで12年修行した後、6年前に独立を果たし、福岡で自身が立ち上げた木工工房「nishimokko（ニシモッコ）」で大小様々な作品を手掛け

るようになりました。製作に使うのは全て「NISHIMOKUSAN」の木材。小さな作品は福岡の工房で製作しますが、大きな家具などの作品は設備の整った「NISHIMOKUSAN」で製作しています。木に触れる時間が好きで、中でも長崎産のクスノキが一番相性がいいと話す洋一さんの強い味方が、大学生の頃から付き合いのある大村市の山師です。80代のベテランから仕入れたお気に入りの木が数種類、作業場の隅で乾燥され出番を待っていました。



NISHIMOKUSAN オリジナルカッティングボード  
樹種はクスノキ、ケヤキ、タモなどを使用



「nishimokko (ニシモッコ)」の作品

木作家として福岡で活躍する一方、兄の材木店が忙しくなった時や、オーダー家具の注文が入った時などはすぐに駆けつけ一緒に作業するのが常となっているそう。支え合い、お互いに良いものを作り出す製作工程は仲の良い兄弟ならではの息の合った連携プレーそのものです。

## 地元の魅力を活かした木工作品

新築からリノベーションなどの建築工事も手掛ける「NISHIMOKUSAN」ですが、昨年オリジナルカッティングボードが西海市のふるさと納税返礼品として認定を受けました。このカッティングボードはデザインを弟の洋一さんが、制作を兄の弘毅さんが手掛けるコラボ作品です。西海市の魅力を伝えるため、洋一さんが子供の頃に感じた地元の自然を表現しており、海や山、風の名の通り柔らかで繊細な独特なフォルムに癒されます。

## 地域に根差した新しい試みを

「二階 - nikai」。何とも不思議なネーミングですが、これはNISHIMOKUSANの2階に造られたイベントスペースの名称です。窓から差し込む光の先には青い海が広がり、絶好の癒し空間となっています。ここは元々倉庫でしたが、4年前に大工さんの手を借りて自分たちで改築したそう。個展や会議室、フリーマーケットなど様々な方が訪れる場所となりました。材木店ならではの企画も好評で、大瀬戸活性化委員会主催「みんなの本棚」では、沢山の子供も達が各々の本棚を製作し、自宅からお気に入りの本を持ち寄って図書館を開きました。



イベントスペース「二階 - nikai」(左)  
子ども達で賑わったワークショップ (右)

実用性と遊び心に満ちた木工作品制作と地域の人々が交流できる場所作り。若いご兄弟が広げる活動は、これからの地域活性化と長崎の林業を盛り上げる力に溢れていました。

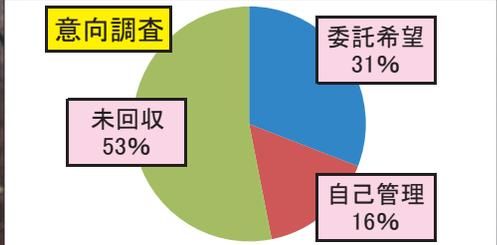
(NPO 法人地域循環研究所)

林業普及だより

# 県北での新たな森林管理システムの取組み



手入れ不足の人工林



整備された人工林

## 県北での新たな森林管理システム

市町が主体となって適正な森林管理を進めていく新たな仕組み「森林経営管理制度」の県北での取組みを紹介します。

森林所有者に対して森林をどのように経営管理したいか市町が意向を確認する必要があることから、令和2年度に平戸市・松浦市・佐々町において意向調査を実施しました。調査の結果、市町に森林の管理委託を希望する所有者が31%、自己管理を希望する所有者が16%、未回収が53%となりました。森林に関心がない所有者や林地台帳と現地が一致しない箇所も多く、未回収が半数以上となりました。

管理委託を希望する森林については市町が林業経営に適した森林か否かを判断し、経営に適した森林は「意欲と能力のある林業経営体」に管理を再委託することになります。令



市職員との取組み検討状況

和2年度に回答のあった市町に管理委託を希望する森林面積は小さいため、令和3年度も意向調査を継続し、整備面積を集約化することで効率的な施業につながることを期待されます。

また、林業経営に適さないと判断された森林は市町が事業主体となって広葉樹林化等により公益的機能の向上を図ることになります。



市職員を対象とした現地研修会

## 意欲と能力のある林業経営体の登録

林業経営に適した森林の経営管理の再委託先は「意欲と能力のある林業経営体」に登録されている事業体となっています。県北においては生産量・生産性の向上目標、実施体制の強化等の選定基準を満たした長崎北部森林組合が令和3年3月に登録され、新たな森林管理システムの事業の受け皿として森林整備の推進が期待されています。

(県北振興局 林業課)

地方だより

## 「木の駅たかきプロジェクト」 林地残材出荷量 1,000t 達成!



ながさき農林業大賞を受賞



木の駅プロジェクトの活動状況

高来町山林協議会による「木の駅たかきプロジェクト」の林地残材の累積出荷量が、1,000 t を達成しました。

木の駅プロジェクトは林地残材を地域通貨（もり券）で買い取り、燃料用木材として有効活用する取組みです。平成 28 年から活動を始め、令和 2 年度 12 月までに累積 1,034t の木材が出荷され、約 532 万円分の地域通貨が発行されました。

このような地域の森林資源を生かした森林整備の促進と、山と地域を結び地域活性化につながる取組が評価され、「令和 2 年度ながさき農林業大賞」において都市との交流部門で運営委員長賞を受賞されました。

年度	出荷量 (t)	地域通貨換金額 (円)
平成 28 年	136.60	652,000
平成 29 年	301.68	1,570,500
平成 30 年	150.75	791,500
令和 元年	238.52	1,232,500
令和 2 年	206.85	1,075,000
合計	1,034.40	5,321,500

平成 28 年から令和 2 年 12 月までの活動実績

今回は、出荷実績 1,000t 達成にあたり、木の駅プロジェクトのますやまただお実行委員長を務めている高来町山林協議会の増山忠男会長にお話を伺いました。



「1,000 t 達成は、会員の皆さんの熱心さにより活動が続いた賜物です。地域の森林資源を有効活用することで、森林整備が進み、地域も元気になっていくこの活動を、今後も続けたいです。」とにこやかにお話をいただきました。

木の駅プロジェクトは県内唯一の先進的な活動として、今後も更なる発展が期待されます。

(県央振興局 林業課)

地方だより

## 壱岐島の銘木・巨樹紹介



### はじめに

壱岐は森林率が35%と低いですが、シイ・カシ類を中心とした天然広葉樹が7割近くを占める自然豊かな島です。壱岐市林業研究同志会では、林業への理解と関心を喚起し、あわせて島の自然保護意識の向上のため、様々な活動が行われてきました。

その活動の一環として、島内の銘木・巨樹の現地調査を行い、その内容を一冊の冊子にまとめられています。〔壱岐島の銘木・巨樹〕

今回はその中から壱岐が誇る銘木・巨樹を2本ご紹介させていただきます。

### ①水神社のイチョウ

勝本町布気触の水神社にあるイチョウで、幹囲約5.5m、樹高約26m。樹齢は1,000年以上の県内有数の老古木です。

1861年に完成した市の指定文化財である「壱岐名勝図誌」にもスケッチがあり、このイチョウ自体も市指定の天然記念物となっています。根元は空洞になっていますが、樹勢は旺盛で樹形も美しいです。

### ②渡良のアコウ

郷ノ浦町渡良東触にあるアコウで、幹囲約5.6m（地上50cm）、樹高約9m。アコウは亜熱帯系の高木で、自生としては壱岐が北

限とされており、県指定の天然記念物となっています。

このアコウは大正12（1923）年に壱岐在住の植物研究者により発見されています。現在自生と判断されていますが、植栽であったとしても貴重なものです。

半城湾内の海岸近くの斜面上にあり、日当たりがよく強風もある程度避けられる場所に根付いており、生育は旺盛です。

### おわりに

島民の方でもなかなか知らない隠れた名所をより多くの人に知っていただき、壱岐の魅力を感じていただくと共に、自然の大切さを感じていただければと思います。



①水神社のイチョウ



②渡良のアコウ

（壱岐振興局 農林整備課）

林業団体情報

# 令和3年度 長崎県民の森 年間イベントのお知らせ

日ごろより長崎県民の森をご利用いただき、ありがとうございます。

今年度も、1年を通じて皆様に楽しんでいただけるイベントを計画しましたので、ご紹介いたします。

月	日	イベント内容
6月	27日	野生きのご観察会Ⅰ
7月	1日～	長崎県民の森フォトコンテスト2021
	25日	夏休み木工教室①
	25日	親子で草木染め
8月	8日	山の日イベント
	22日	夏休み木工教室②
9月	26日	野生きのご観察会Ⅱ
10月	17～31日	ドングリのひみつ展（森林館）
11月	14日	巣箱作り
	21日	紅葉狩り健康ウォーキング
	22～25日	ドングリのひみつ展（長崎県庁1階）
	28日	クリスマスリース作り
12月	4, 5, 11, 12日	ウッドバーニングでクリスマスカードを作ろう！
	19日	ミニ門松づくり 大人の森カフェ（ネイチャーゲームとほっこり森時間）
1月	30日	親子で木工製作
2月	20日	冬芽観察と焼きマシュマロ・焼き芋
3月	5日	シイタケの駒打ち体験

どれも、毎年大人気のイベントです。

また、今年度は、より県民の森を楽しんでいただけるよう、「親子で草木染め」や「大人の森カフェ（ネイチャーゲームとほっこり森時間）」等、新しいイベントが追加されました！ どのようなイベントになるのか、今から楽しみです。

これらのイベントの多くに、長崎県民の森インタープリターの方々にご協力いただいております。本当にありがとうございます。

インタープリターとは、長崎県民の森で、県民の皆様に自然のすばらしさをお伝えするお手伝いをしていただくボランティアです。

長崎県民の森では、インタープリターを随時募集中です！ 興味のある方はぜひ下記QRコードからパンフレットをご覧ください。

イベントの計画・開催予定については、長崎県民の森HPに掲載しております。

申し込み人数に限りがあるイベントは、例年、早々に定員に達しますので、ぜひ早めのチェックをお願いします

※イベントの開催や時期については、変更になる場合がございます。

※イベントに参加される方は、新型コロナウイルスの感染拡大防止にご協力をよろしくお願いいたします。



紅葉狩り健康ウォーキングの様子

今年度も長崎県民の森の四季折々の風景が皆様をお待ちしております。

新型コロナウイルスで気分が落ち込みやすいときですが、自然の中でリフレッシュしてみませんか？

スタッフ一同、皆様のご来園を心よりお待ちしております！

インタープリターについてはこちら→



←イベントについてはこちら

（長崎県民の森 管理事務所）

## 抵抗性クロマツの抵抗性向上をめざして

### はじめに

松くい虫によるクロマツ被害が県北地域、下五島地域で再び猛威を振るっており、抵抗性クロマツの更なる松くい虫被害への抵抗性向上が強く求められています。林木育種の分野では国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所林木育種センター九州育種場（以下育種場）を中心に松くい虫への抵抗性を向上させる取り組みが継続されています。

### どうして枯れるのか

マツノザイセンチュウ（以下センチュウ）が病原体であることはよく知られていますが、このセンチュウが侵入したらなぜ松が枯れるのか、その仕組みが分子レベルの研究でわかってきました。それはセンチュウの侵入を異物ととらえ過剰反応を引き起こし自滅するというものです。一方、抵抗性マツとして選抜されたグループは過剰に反応せず、自力で防御します。この性質の違いは遺伝子レベルで違いがあることが報告されています。抵抗性マツ品種の交配を繰り返すことで、その遺伝子を集積し、より抵抗性の強い苗木が創出できることとなります。

### 採種園の改良について

枯れないマツを1本つくっても増やすことは困難で、採種園の形で種子の生産によって普及していくことになります。

採種園の母樹として求められる性質は、抵抗性が強いものばかりではありません。よく花をつけ開花時期が揃い、よく着果（松ぼっくり）することが必要です。

初期の第一世代抵抗性品種は16品種しかなく、これを使って九州各県で採種園を造成しましたが、十分な選択肢はありませんでした。現在は追加選抜され44品種となり、より採種園の条件にあった選択肢が増えており、これにより遠目県営採種園の改良がおこなわれています（図1）。

### 終わりに

センターでは育種場と共に第一世代品種の人工交配から選抜された第二世代品種を用い、よりコンパクトで種子生産性の高い採種園をめざして試験を開始しました。抵抗性の向上したクロマツを安定的に生産できるようにしたいと思います。

（農林技術開発センター）

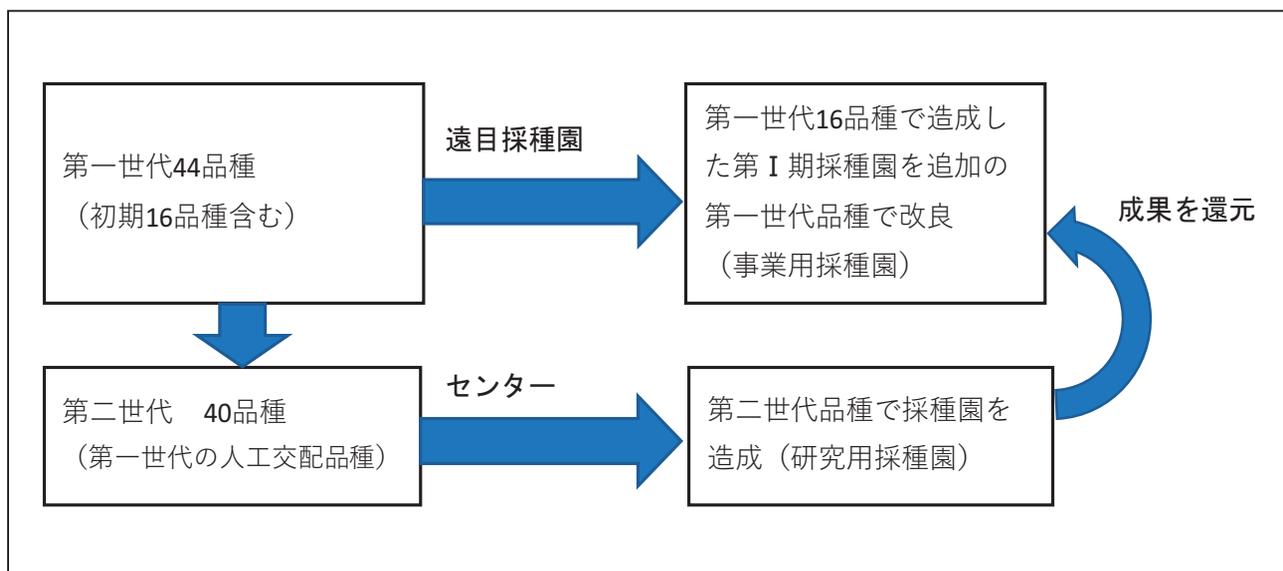


図1 抵抗性クロマツ採種園改良の流れ

## 紹介コーナー 川添酢造有限公司



西海市大瀬戸町雪浦地区に、明治33年から120年以上続く老舗の醸造所「川添酢造」があります。工場内の地中や壁には25トンの活性炭や備長炭を埋め込み、空気から環境を整えるこだわりをもつ川添酢造。水が良ければ必ずいい品が出来るという教えを守り、雪浦川上流の水に備長炭を入れタンクで更に上質な水に変えて使用しています。無駄な添加物は加えず自然な方法で造られた数々の商品には長年のファンが多いのも頷けます。今年1月この川添酢造で珍しい酢が開発されました。その名も「クロモジ玄米酢」。クロモジとはクスノキ科の落葉低木で香りが良いことから枝は高級楊枝として使われます。精油成分が飛ばないように工夫し、長期間熟成を重ね、更に葉を加えた酢は癖のない

すっきりとした味わい。普段使いの調理酢以外にも、ワインビネガーのように味のアクセントとして使うのもおすすめ。炭酸水で割って飲むとまるでシャンパンのようで、甘いサイダーで割るとお酢の刺激が苦手な人でもその美味しさを堪能できるはずで、抗菌作用があるため、発酵用の甕の中も大変綺麗な状態を保つクロモジ酢。まだまだ進化を続けていく山の恵みの新境地のお酢を一度試してみませんか。



### 川添酢造有限公司

住所：西海市大瀬戸町雪浦下郷 1308-2

電話 / FAX：0959-22-9305

メール：kawazoesuya@gmail.com

営業時間：8:00-17:00（土日祝定休日）

## 伊万里木材市況

### 【ヒノキ】

令和3年4月現在

長さ	径級 cm	等級	高値 (円/m <sup>3</sup> )	現在出荷量	現在引合	需要見通
4m	16~18	直	24,000	少ない	多い	多い
	16~18	小曲り	22,400	少ない	多い	多い
	20~22	直	22,600	少ない	多い	多い
	20~22	小曲り	21,000	少ない	多い	多い

### 【スギ】

令和3年4月現在

長さ	径級 cm	等級	高値 (円/m <sup>3</sup> )	現在出荷量	現在引合	需要見通
4m	18~22	直	13,800	普通	多い	多い
	16~22	小曲り	12,600	普通	多い	多い
	24~28	直	13,800	普通	多い	多い
	24~28	小曲り	12,600	普通	多い	多い

※情報・お問い合わせは、伊万里木材市場 電話 0955-20-2183 まで

## 長崎の山：<sup>たけ</sup> <sup>つじ</sup> 岳の辻 212.5 m (壱岐市)



壱岐市の最高峰と言え、郷ノ浦町にある岳の辻です。頂上の高さは212.5mで麓の車道入口から頂上を目指すと5分もすれば頂上近くの駐車場に到着します。山が低いのもそれなりの理由があります。壱岐の島はもともと低平な玄武岩の台地でできており、急峻な地形を形成することは困難だったようです。地元の方言では、「岳」は小高い山や丘を指しているようです。この岳の辻は壱岐対馬国定公園の一部に指定され、壱岐市の観光名所の一つになっています。

頂上付近には園地が整備され、訪問者を楽しませてくれます。散策するに要する時間は30分くらいでしょうか。下車してまず目に飛び込んでくるのがテレビ塔です。テレビ塔がいくつか設置され、岳の辻の見晴らしのよさと相俟って本土からのテレビ番組を壱岐市民に的確に伝える大事な役割を担っていると思われま。東側展望広場からは、壱岐島の西部から南部が見渡せ、壱岐の島の特徴である平坦な地形や一支国の遺跡がある深江田原地区を望むことができます。北を望むと森林と農地が織りなすモザイク模様を、西側に目をやると郷ノ浦町の市街地や海岸線を見ることができます。園地内にはのろし台あとや明治22年に実施された緯度測量点、及び歌碑など壱岐にまつわる様々なモニュメントが設置されています。

壱岐の島の面積は約14,000ha、森林面積は約5,000haで森林率は約35%となります。しかし、壱岐の島の森林率が低いからと言って森林の果たす諸機能が住民にとって過少であると評価するのは決して妥当ではありません。壱岐市の人口密度は高く、多くの人が暮

らしています。壱岐市民は家屋の背後に北向きの防風林（背戸山<sup>せとんやま</sup>）を配置して自分たちの暮らしや田畑を守ってきたのです。北風の強い風土に適応した生活防衛策です。

また壱岐市では焼酎の製造販売が盛んです。焼酎を製造する上で大事なことは良質の水源を確保することです。岳の辻の麓には有名な焼酎製造メーカーが何社ありますが、岳の辻から湧き出る良質の水があるからこそ焼酎づくりの会社が岳の辻の麓にできたのです。岳の辻はながさき水源の森の一つに指定され、水源としての重要性が広く認識されています。周辺には永田ダムやため池があり住民の暮らしを支えています。

壱岐市民の暮らしや産業及びその文化には、森林の持つ多面的機能が色濃く反映しているのです。

岳の辻に行くには何か所か登山口があり、誰でも気軽に上ることができます。壱岐を旅行される場合はぜひ訪問することをお勧めします。



(NPO 法人地域循環研究所)

長崎の林業 5月号 第788号  
編集・発行 長崎県林政課  
住所：長崎県長崎市尾上町3番1号  
電話：095-895-2990  
ファクシミリ：095-895-2596  
メールアドレス：  
s07090@pref.nagasaki.lg.jp